



【教育 GP】原田先生フィールドワークゼミナール

## 保津川筏復活プロジェクト2009の実施(NHK「おはよう関西」にて放送されました)

9月9日(水)、半世紀ぶりとなる京都・保津峡での筏流しの再現をめざす「保津川筏復活プロジェクト2009」が行われました。1300年以上も昔から行われてきた保津川の筏流しは、明治以降、鉄道やトラックでの輸送に切り替わり、また上流にダムが造られるなどした結果、戦後しばらくして姿を消しました。

今回の筏流しは、筏流しの再現を通して歴史や森林資源の大切さを考えてもらおうと、地元のNPO法人(特定非営利活動法人)や京都府、亀岡市文化資料館、大学などをつくる保津川筏復活プロジェクト連絡協議会が主催したもので、本学フィールドワークゼミナール(原田ゼミ)で、上下流交流について学んでいる学生もボランティア・スタッフとして参加しました。



まず最初に、山の斜面から筏を組む河原まで材木を運ぶのですが、その作業は何本かの材木を川に向けてまっすぐに「滑り台」のような形に並べ、1本ずつ、川に向けて落としました。そうして川に落とした材木を、今度は川の中で待っているスタッフが1本ずつ作業場所まで水に浮かべて運ぶのですが、冷たい水の中での作業は体力もどんどん奪われ、大変な作業となりました。そうして組まれる筏は4mの材木を使った6連の筏で、全長は24mにおよびます。しかし、かつての筏はその倍の12連、全長は53mほどだったそうです。

材木を筏に組む作業は、元筏士の方々への調査をもとに行いましたが、実際には試行錯誤の連続でした。時間を気にしながらも、「ああでもない、こうでもない」と自分たちで考えながらの作業はいい経験になったと思います。

半世紀ぶりとなる保津峡での筏流しの再現は、保津川下りの船頭さんたちにより、清滝川との合流点「落合」から京都の嵐山までの約5kmで行われました。途中の激流も無事に乗り越え、大勢の観光客のみなさんに見守られながら無事に嵐山に到着しました。

原田ゼミではこれからも、流域に伝わる川の文化の継承を通じた淀川水系の環境保全に向けた取り組みを進めていきたいと考えています。

